

札幌市立常盤小学校の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

本校では、「図書館の役割を理解し、情報を得る場、心を育む場として進んで活用する子ども」「読書への関心を深め、読書に親しみ、豊かな心、学ぶ力を高める子ども」をテーマに取組を進めている。日常的に本に触れ合う機会をもつことで読書に興味、関心をもち、よりよい読書習慣を身に付けるとともに、自ら積極的に本を選び、自分の読みたい本の種類の幅を広げていく子どもを育てる。また、情報を得るための基地として教科学習や特別活動、行事等で積極的に図書館を活用できる子どもを育てる。

2 取組内容

(1) 教科・総合的な学習に関わる活動

① 国語の学習での取組「POP作り」

全学年・全学級で「POP作り」の取組を行った。図書館の本を利用し、自分が選んだ本の紹介カードを作り、廊下に掲示し読書を推進した。低学年は高学年のPOPを参考にしながら作成を進めた。また、授業での活動だけではなく、冬休み中に図書館で借りた本の中から一冊を選び、その本についてのPOPを作成する課題をもたせた。



POP & 交流掲示板

② 総合的な学習の時間、行事での取組「職人体験」

6年生の修学旅行では、キャリア教育の一つとして職人体験を行った。その事前学習では、自分が体験する職・職人について図書館の本を使って調べた。また、修学旅行の係活動において、訪問先についての情報を図書館等で調べ、修学旅行のしおりにまとめ、発表するための資料とした。



職人体験に生かす

③ わかば学級（特別支援学級）での取組「絵本作り」

わかば学級（特別支援学級）では、絵本作りを行った。読書をして、それを絵本にしていく学習である。今回は「しあわせの王子」を題材とした。作成した絵本は展示し、お互いに見合いながら交流した。また、3学期には学習を生かし、オリジナル絵本を作る活動を行った。



児童制作の絵本

(2) 特別活動に関わる活動

① 朝読書、「動く図書館」の取組

本校では、朝読書を毎朝朝の会の前の10分間に全校一斉で取り組んでいる。本は図書室で借りたもの、自宅から持ってきたもの、「動く図書館」（教室前に設置）のものを利用する。

② 児童による読み聞かせの取組

児童による読み聞かせの取組を行った。2学期には児童委員会（図書委員会）が主催した読み聞かせイベント、3学期には「いちいの輪活動」（縦割り活動）でグループ内の4・5年生が6年生と下級生に向け、絵本などの読み聞かせを行った。



読み聞かせ（縦割り活動）

3 成果と課題

(1) 成果

「POP作り」の活動では、国語でPOPの作り方を学習した。参考となるよう高学年のPOPを先に掲示した。この取組では、本を紹介する活動にとどまらず、そのPOPを読んで本を選んだ子に、簡単な感想を書いた付箋を貼ってもらうという交流の形式をとった。付箋に書かれた言葉は、POPを作成した子にとって大きな励みとなった。この活動では、POPの書き手、読み手のお互いが読書への意欲を高めることにつながった。

修学旅行の事前学習は、総合的な学習の時間に「キャリア教育」として行っている。調べ学習の活動の中で、情報源を図書館の他にインターネットを活用するなど複数にすることで情報を選ぶ力が育まれた。また、お互いに発表し合う活動をすることで、情報を伝える力を育てることができた。

絵本作りの活動では、今回の題材「しあわせの王子」を学習発表会の劇の演目とし実際に演じた。この活動では絵に表現したり、演じたりすることで、より深く内容を意識し理解することができ、その後の読書活動への意欲につながった。



「動く図書館」の設置にあたっては、開放司書、図書ボランティアの方々の協力を得て、それぞれの学年にあった内容の本を選び出した。キャスター付きの本棚でそれぞれの教室の前に設置した。本は定期的に入れ替えを行い、手軽に本に触れ合えるようにした。また、新作やお勧めの本を配置するなどの工夫をした。この取組を通し児童にとって本がより身近になった。



読み聞かせを児童同士で行う活動では、読書に対し受け身だった活動から、能動的に取り組んでいく姿勢が見られた。図書ボランティアや教師による読み聞かせを行うことは、児童にとって読み聞かせのお手本となるので、できる限り並行して取り組んでいきたい。

(2) 課題

「動く図書館」を設置することで、図書館に行かなくても本が得られるため、図書館の利用率が低下することが危惧される。そうならないために、POPの取組を充実させたり、動く図書館で「図書館にはこんなに面白い本があります。」と図書館の魅力をアピールしたりしていくことが必要になってくる。

今年度の取組と図書館利用率との関係性についても検証していきたい。